

成果の説明書

(氏名) 花井 友美	(学部) 地域政策学部
<p>1 重要事項</p> <p>◆教育活動</p> <p>・地域統計論</p> <p>地域社会の現状を正確に把握し理解するための基礎的なリテラシーの育成を目的として授業を実施した。具体的には、地域に対する興味・関心と、データの処理・集計・可視化・分析といった基礎的なデータ分析スキルを結びつけ、地域社会を客観的に捉える視点を養うことを重視した。これにより、学生がデータを通して地域の状況を多面的に理解し、根拠に基づいて地域を分析する力を身につけることを目指した。</p> <p>・観光計画論</p> <p>観光地の魅力を持続的に高めるために必要な観光計画の基本的な考え方について学ぶことを目的として授業を実施した。具体的な観光地の事例を取り上げながら、「観光を支える政策の視点」と「観光者の行動の視点」の両面から観光地づくりについて理解を深めた。これにより、観光地がどのように魅力を創出し、発展していくのかについて具体的なイメージを持ちつつ考察する力の育成を図った。</p> <p>・旅行者行動論</p> <p>観光の場面において人がなぜその行動をとるのかという点に注目し、旅行者行動の背景にある心理や仕組みについて理解を深めることを目的として授業を実施した。観光行動を多角的に捉える視点を重視し、行動経済学や産業組織論など関連分野の知見も取り入れながら、旅行者行動の理解を図った。これにより、旅行者の意思決定や行動の背景を多面的に考察する力の育成を図った。</p> <p>・基礎演習</p> <p>観光心理学に関するテキストの輪読や議論、模擬データを用いた分析実習などの活動を通して、観光行動の背景にある心理や意思決定の仕組みについて理解を深めた。あわせて、文献を読み取り議論する力や、データを基に考察する力の育成を図り、3年次以降のゼミ活動において主体的に研究を進めていくための基礎的な力の養成に取り組んだ。</p> <p>・初年次ゼミ</p> <p>スピーチや輪読、レポートの執筆、情報の収集・整理、ディベートなどの活動を通して、今後大学生として学びや研究を行う上で必要となる基礎的なスキルの育成を図った。</p> <p>◆研究活動</p> <p>観光における人間行動と心理過程に着目し、観光経験の形成や評価のメカニズムに関する研究を行ってきた。とりわけ、バーチャルな旅体験、ロングステイ観光、観光経験の記憶と共有といったテーマを中心に、心理学および観光学の視点を統合した研究を進めている。これらの研究成果は、論文・書籍・学会発表等として公表するとともに、科学研究費助成事業等の研究課題としても展開している。主な研究業績は以下のとおりである。</p> <p>・書籍</p> <p>花井友美 (2025). 第 8 章 メディアの基礎知識と自然資源のツーリズム. 有馬貴之・菊地俊夫 (編) 『自然観光の科学』 (pp. 60-67) 朝倉書店</p> <p>・論文 (査読あり)</p> <p>Hanai, T., Yashiro, K., & Konno, H. (2025). The structure of memorable experiences in virtual travel. <i>Journal of Global Tourism Research</i>, 10(2), 171-176.</p>	

・学会発表

花井友美・岡部純子・金振晩 (2026年3月). 肘折温泉におけるロングステイヤーの行動実態調査 ロングステイ観光学会第10回年次大会

花井友美・八城薫・今野久子 (2025年12月). バーチャルな旅におけるプレゼンスとマインドフルネスの役割 第40回日本観光研究学会全国大会

今野久子・大下茂・花井友美 (2025年12月). 伝統産業への若年層の関心を広げる体験型観光・まちづくりの展開の試み 第40回日本観光研究学会全国大会

Kim, J., Ku, M., & Hanai, T. (2025年11月). The Way to Revitalize Ryokan Management. 2025 ICHRIE Conference

Hanai, T., Kaku, Z., Ku, M., & Kim, J. (2025年7月). Changes in Health Consciousness and Stress Reduction in Walking Programs. 29th Asia Pacific Tourism Association Conference

・競争的資金等の研究課題

「刺激への感じ方がバーチャルな旅体験への評価に与える影響についての研究 (課題番号: 22K12599)」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 研究代表者

「おみやげを通じた非日常の記憶と観光経験の共有に関する研究 (課題番号: 25K15678)」日本学術振興会 科学研究費助成事業 基盤研究(C) 研究分担者

・その他共同研究

「肘折温泉におけるロングステイヤーの行動実態調査」ロングステイ観光学会研究分科会 研究代表者

◆学内業務

教務委員会、基礎教育センター、IR支援プロジェクト、情報・統計科目検討WGの各委員・メンバーとして学内業務に携わった。

2 その他の事項

◆学会活動

日本観光研究学会 大会学術委員会 (副委員長)、学会賞等審査委員会委員
ロングステイ観光学会 理事

International Society for Tourism Research Editorial Board

として学会運営に携わった。

3 次年度以降の計画・抱負

次年度以降は、これまで取り組んできた観光行動や観光経験に関する研究をさらに発展させ、旅行困難者に対するバーチャルな旅の役割、観光経験の記憶や共有、旅行経験中の生理的・心理的变化といったテーマを中心に研究を継続していく予定である。特に、観光体験が人の心理や行動に与える影響について、実証的なデータ分析を通して理解を深め、その成果を国内外の学会発表や論文として発信していきたいと考えている。

また教育面においては、観光や地域に関するデータ分析や行動理解の視点を取り入れた授業を通して、学生が主体的に地域や観光を分析・考察できる力の育成を引き続き目指していく。さらに、ゼミ活動を通して、学生が実際の地域課題に触れながら学ぶ機会の充実を図っていきたい。